

やまとたましいはっしょう

日本靈魂発祥の地

じんしゆ せがきくよう
神祝・施餓鬼供養の最高の八月十五日

平成十九年十月九日

三代目 東核芒種大伝道師 加古藤市

四七四 ○〇五六愛知県大府市明成町一丁目一七五

○五六二 四四 ○七〇八

神祝の施津とは

この神祝の施津は私たち人間の意志では計り知る事が出来ない「生と死」産まれ変わり輪廻転生の施津への想いの祈りを行事化したのが、施餓鬼供養ではないでしょうか……。

その施餓鬼供養は、毎年八月十三日に迎え火を焚き、それぞれの家が、ご先祖の御靈魂をお招きして、八月十五日を最高の供養日としてきた日本ノ国が、昭和二十年八月十五日を連合国に「無条件降伏の日」と誰が定めお決めになったのでありますでしょうか……。

これこそ神佛の神祝の施津ではないでしょうか……。それがために日本ノ国は再出発にあたり、二度と戦争をしない誓いを憲法の最高の権威である第九条に掲げ、全世界にお詫びを為し、その八月十五日を終戦記念日として、統治権を発足させ、戦争殉難者の御靈魂鎮めの大祭日と定め、神祝の施津へのお詫びの日としたのではなかったでしょうか……。

現世では早くも日本の意志がくずれ、憲法の九条を改定せんとする霊魂が、戦争遺族会まで、憲法第九条改定の立場に立たせ、組みした事が、神呪の施津では赦されず、戦争殉難死された靖国の御霊魂の一人も、その祭典には参加することが出来ず、憲法第九条改定を唱える家族の元にも帰る事ができず、行き場を無くした御霊魂の総てが、今一番の安らぎの場所として選ばれた聖なる霊地が、正義と良心「大正腑天神熱田の生産」を祀る大腑の森でありました。

小碓尊の御霊魂

今から約二千年の昔に、小碓尊が父景行天皇に、蝦夷征伐を命ぜられて、「私は熊襲を征伐して帰ったばかりなのに、今度は蝦夷征伐ですか。それほど蝦夷が悪い事をしているのですか。反乱でも起こしたのですか?」とお尋ねすれば、父景行天皇は、「いらざる事は聞かずとも良い。征伐に行けと言われれば征伐に行くが其責の使命である」と仰せになり、それ以上何もお聞きすることが出来ず、

蝦夷征伐の副将軍に任命された、尾張族の幡頭建稻種尊の日神山の館にて、蝦夷征伐の為の荷駄軍船を、尾張の国と三河の国を分ける境川の河口にある南島に集結させる事になり、小碓尊は、わずかな供を連れて日神山の館を出られ、徒歩にて南島に向われたのでありました。

愛の産霊の地・日本霊魂誕生の森

小碓尊はその道すがら、南島が見える丘の上に立たれた時に、南島を眺めその奥につづく衣浦の海を見つめながら、蝦夷が何をしているやら解らず知らず、征伐に行くと言ったのでは、我が正義良心が許されず、この場限りに「蝦夷征伐に行くのでは無く、蝦夷に愛の産霊に行くのです。」と天に向かってお誓いになれば、天津より日ノ本熱田の「大正腑天神」生命生み出し生産の神が、目の前の森の中にある大銀杏の木の上にお姿をお見せになり、「その霊魂こそ太陽の

宗像【正義と良心】であり、その靈魂こそが人類の福祉・人間の幸福をもたらす太陽の大御意志・太陽の靈魂である」と仰せに成り、「この靈魂の持ち主である、小碓尊は今日より日本武尊と名乗るがよい。」と仰せになり、姿をお隠しになられたので御座居ました。

正義と良心「大正腑天神熱田の生産の神」の祀り

日本武尊は急ぎ、その森の中に入り銀杏の大木の根元に、太陽の正義と良心「大正腑天神熱田の生産の神」をお祀りされたので御座居ました。日の本国に始めて熱田の生産の神がお祀りされた神霊地でございませう。

おおぶむむり 大府村の誕生

その後、日本武尊がお立ちに成られた跡地を意志塚（石塚）と名付け置かれ、その下を流れる小川を意志根川（石根川）と名付け置かれたので御座居ました。正義と良心の根元、命の元生産の太陽神を「大正腑天神熱田の生産の神」とお祀りされた森を、大腑の森とお呼びにされたことが、何時しか大府の森と呼ばれるようになり、大府村が誕生したので御座居ました。

この愛原の地、大腑の森のあった場所は、現在の愛知県大府市明成町一丁目一七三番地と一七五番地で御座います。

この土地は昔から神社があり、神が祀られていた地であることは言われていますが、日本の国で一番始めに熱田の生命生産出しの生産の神の祀り場とは知る由もなく、昔から尾張の国からは何時の時代にも大人物が出ると言われてきたのは、この生産の産霊の神の聖地があったればこそその事と仰せでございませう。

「日本靈魂発祥の地」として、平成十一年十二月九日太地喜和子さまが先達となり、神風特攻隊・人間魚雷回天の精霊を始め、東条英機他二十七名の御靈魂・戦争殉難死された靖国の御靈魂の総てを伴ない、この日本靈魂発祥の神地を、安らぎの聖地と選び、お集まりになられたので御座います。このいきさつに付いては後で書かせていただきます。

この生産の地を宅地として住まいする加古藤市に、平成元年二月二十四日の昭和天皇の大喪の礼の時に、NHKの総合テレビを通して観せられたのが、弥勒再下生の神聖なるお姿でございました。

その神聖なる画面を、私の脳裏靈魂に確かと焼き付け、打ち込ませ、広島市に在住される熊田良雄画伯に説明させになり、熱田の生命生産出しの生産の神が、熊田良雄画伯に絵描かされたのが、九条不戦「神々との誓い」の神聖画でありました。

中国と日本国の神呪の係わり

神聖画の内容は、日本国が一番迷惑をお掛けした、中国の蒋介石閣下と共に

中国人民が日本国を敵国とせず、日本国の行く末を案じ、長崎に原爆が投下された直後八月九日に、蒋介石閣下は連合国の一員として、重慶よりアメリカ・イギリス・ロシアに打電をされ、日本列島の四分割占領に反対し、天皇制に付いては日本人自身が決める事であり、他国が口出しする事、すでに侵略である。

と言いつつ、中国人民は日本を救い、救った国の日本兵を一人も捕虜にせず、連合国が決めた十九兆円の賠償金も放棄することを打電されたのでございます。この事を連合国が日本の占領政策に取り入れたことにより、中国に侵略した日本国は、中国から恨みの怨念を受ける身の上であった立場を、中国の蒋介石閣下は、「何時いかなる時でも、救す心なくば、世界平和にはなりません。ましてや原子爆弾が使用された今日、世界の平和なくしては、中国の平和もなく、救せざるを救す。」との意志を以って神に答えられたと仰せで御座います。その事により、日本国は中国に救われ、日本の国は世界の何処にも敵国はなく、軍隊も軍備も不要

の国と成ったにもかかわらず、日本の国は中国を仮想敵国として、日米安全保障条約を結ぶ事は、神に背く事に成るのです。この様な事をしていては日本の志合せ安全もないのです。アメリカが中国を仮想敵国としても、日本は中国人民に助けられた国として、それが出来ない国なのです。

それなればこそ日輪太陽産霊の神が生命をお生み出しになる時の意志「日ノ本の日本霊魂」を以って中国と和合して、世界平和を生み出すために、日本国憲法の第九条に、日ノ本太陽の大御意志をそのまま天降だし置かれたのが、戦争放棄「日本国憲法第九条」の御意志で御座居ました。

神呪の施津を現実の世界に

それ故に、この憲法を反故にして改定をする時には、神佛の神呪の施津では、「今度は原子爆弾ではなく日本列島は核戦争の戦場となるでありますよ」と仰

せになり、弥勒再下生の絵姿の中に、核戦争の恐ろしさをお観せになりました。そのような姿にならぬ為に、「汝、この絵姿を普遍為し、世界津々浦々に行き渡るときに、地球が核戦争の悲劇から救われる時であろう」とみ教えがあり、それ以来、この神聖画を私の家の床の間に掲げ、お祀り申し上げ、沖縄から北海道までの神宮や神社、寺院に宗教家、身近な人々親戚友人一般の人たち八百五十有余以上奉納して歩き、海外にも人を通して普遍活動をするに至りました。

「憲法第九条不戦【神々との誓い】の本を出版せよ」と仰せられましたが、私には恐ろしくて出版できずにいましたところ、「それではその前に【円空の生い立ち】を出版せよ」と夢に何度も観せられ、その夢の場所に行くと、その夢の通りの姿があり、その夢現物語「円空の生い立ち」の出版は、「平成五年十月二十日を出版日とするがよい。」のお詞があり、「今、天皇が口を封じられているので、その天皇家の苦しさを国民に知らせる為に、皇后の口を封じるでありますよ。」と仰せに成りました。

花の窟屋神社にて

様々な多くのお知らせ御啓示を戴き普遍活動をして来ましたが、何方なのか判りませんでした。平成二年九月の吉日の事でした。私は左右木吉江さまの運転される車に乗り、花の窟屋神社に参拝したときでありました。左右木吉江さまと一緒に軻遇突知尊の窟屋にお参りして、左右木吉江さまが先に境内を出られましたとき、窟屋の奥からいつもの女性の声が出て、私に「少し左の砂の上に座りなさい」と仰せになり、私は言われるままに砂の上に座りましたときに、窟屋の上にある磐のくぼみの場所に、白衣姿の女神さまがお出になり、「この窟屋は、伊邪那岐家世襲最後の伊邪那身命です。難産の為に、出血多量で亡くなった時の血を花として「花の窟屋」と呼んでいます。私は初代伊邪那身命です。今までも何度かいろいろの御啓示やお知らせをしてきましたが、これからも私が太陽の生産の神の代理として知らせますから、励んでください」と仰せになり、御姿を消されました。

私はその砂の上に平伏していましたが、左右木吉江さまが迎えに帰ってきて、「加古さん何をして居るのですか」と言われた声で、私も我に帰ることができました。

このとき何時も御啓示くださるお方が、初代伊邪那身命であることを、初めて知らされました。その後、熊野本宮大社・玉置神社に神聖画を奉納して来しました。

太地喜和子を海に招く

平成四年十月十日、山口県大津島の回天の出撃基地があった場所に、「本来は国が海に沈んだ御靈魂を神上りさせなければならぬのに、何時まで待っても国がないから……汝、代わりとなり神上りさせてください。」との御啓示に従い、広島にお住まいの河内正臣さまにお話をして、「一緒にする事になり、山口県の徳山駅で待ち合わせをして、船で大津島に渡り、会館の館長さまに許可を得て、記念碑に弥勒再下生の神聖画を掲げ、海に沈んでいる神風特攻隊員や人間魚雷回天

の御靈魂を、神上りさせる神業をいたしました。

そして、徳山駅に戻り、河内正臣さまの運転する車に私共々四人乗りして、その日の内に、九州の宗像神社・(宗像神社は日本の伊勢生成の神を道主貴という奉行を通し、大陸へ伝える為に建立された神社)へ参拝し、生産土之地球(生産の神)をお祀りする幣立神社へ着いたのは午後十時を過ぎていました。近くに宿を取り、十一日の朝一番にもう一度幣立神社に参拝をした上で、次に「四国の朱徳天皇の御靈魂が成仏されていないから、朱徳天皇をお祀りしている白峰神社へ行き、弥勒再下生の神聖画を掲げて供養するよう」に」との御啓示があり、十一日夕方「瀬戸大橋を日がある内に渡る事が出来たら嬉しいな。」と想っていた四時四十七分、車の中で、「神風特攻隊・回天の御靈魂鎮めの神業を良くしてくれた。その御靈魂の神上りをさせる準備が整ったが、神上りさせるには、若い男性たちの靈魂を癒す事が出来る女性を一人生贄としなければならず、その適任者は太地喜和子をおいて

他にいないと、お選びになり、その太地喜和子を海に沈めて、その御靈魂と共に神上りさせる。」と御啓示があり、私が「エえ・・・」と急に大きな声を発声したので、同乗していた他の三人が、何事かと、びっくりされましたが、訳を話せば「そんな生贄になるなんて・・・」と皆が涙をしました。そして十三日、自宅に帰ってから四人乗をしていた太地喜和子さまの車が、岸壁から海に落ち、太地喜和子さまだけ亡くなられ、他の方は自力で泳いで助かったと言うテレビ放送を目にしました。神佛の御啓示の通り神風特攻隊・人間魚雷回天の御靈魂を癒す為に、太地喜和子さまが、海にお入りになり、御靈魂と共に神上りになられた証を見せられました。

英靈の御靈魂の成仏 平成七年八月十五日の御啓示

私は英靈の御靈魂の全てとはいえないまでも、二十代・三十代で亡くなった御

霊魂はお国のためと言いながら、武運拙く親に先立つ不孝をしてしまった御霊魂たちの苦しさに気付いていました。

戦後五十年間、英霊の御霊魂たちが、親に先立つ不孝をしてしまった悲しみを、誰か私たちに代わって詫びて欲しいと待っています。と仰せになり、「この事を日本の誰もが気付かず、親不孝を詫びる心を誰もが持たなかった。それを、五十年目にしてやっと、其貴がそれに気付いてくれた。だから、貴方の身体に、先立つ不孝をしてしまった、英霊の御霊魂の全てを送り込みますから、お受けなさい。その時、身体がチクリと痛みます。けれども、それに耐えなさい。」と言われました。何時になるのかと夜明けを待ちました。丁度、白みかかった頃から、チツクと心臓の少し上に、この事かと想っていたら、右に左に、腕にひじにお腹に來たり大変でした。それに耐えなさいですから耐えるしかないと思っていた。するとまたチクチクとくる。あゝまた私の身体にお見えになった。午前九時半から十時頃になると全身チクチクチカチカになった。幾ら耐え切りなさいと

言われても辛い想いでいました。

何時まで続くのだろうと言う不安にかられながら耐えていました。そしたら、急にパタリとそれが止まった。時計を見たら十一時五五分に間もなくならうとして居るので、NHK総合テレビのスイッチを入れましたところ、武道館で戦没者慰霊の追悼式が始まっていました。そして、総理大臣が戦後五十年の締めにあたり、憲法九条を大切にして、世界に日本が侵略したことや、植民地にお詫びをした演説をなさいました。天皇陛下もお参りになっていました。私は誰も言わなくなつた憲法第九条ということを、久々に聞いて嬉しかった。

しかし、そのすぐ後から流されたHNKのニュースでは、憲法第九条の事には触れず、ただ他国の反応ばかりで、九条を外してしまっていた。他の民放も言いません。なぜ九条の事をマスコミは言わなくなったか。とても不思議に思った。そんな事を考えながら夜に成りました。それっきり痛みはなくなっていました。

養老の滝から神上りを

十六日には、白山の南に禅定道がある阿弥陀ヶ滝から中居神社に参拝して、十七日には、岐阜県羽島市中区中観音堂にお祀りされている、円空上人が母の十三回忌の供養のため彫られた十一面観音さまに、般若心経を唱え、そして不戦を誓い親に先立った不孝をお詫びさせていただき、「どうか成仏へのお導きをしてくださいませ。」と祈願しました。そして、十八日には目的の養老の滝から「御霊魂を天界に上らせなさい。」と言われたのですが、この滝をどうして御霊魂が昇るのか、私には理解できず、滝の近くまで行って、水際に立ち手を合わせ祈りながら、前方東の方を見たときに、滝のしぶきが天に昇っていく逆滝を見ました。その滝を見た途端に、「わあ・・・」と手を天に向け三回万歳をしましたら、私の身体がかるくなり、御霊魂が出て逆滝から天に昇って行くのでした。その姿の証を後で映してみせる。と仰せになり、八月二十九日中日スポーツの紙面に、「NASAの特殊望遠鏡で撮影 宇宙のあなたに数百の幽霊？」と写真が記事になっていました。専門家がこの写真は絶対本物とも書かれていました。

平成九年四月十二日靖国神社の御霊魂

四月の初めに愛媛県が靖国神社への玉串料として奉納された事が問題となり、裁判で憲法違反の判決が下り、靖国の御霊魂は「神社に奉納ではなく、私たちへの玉串料であるのに憲法違反とは、こんな場所には居れない。」と言って、昭和天皇の陵御陵へ四月十二日早朝、初代伊邪那身命さまが、「貴方たちの休まる場所にお連れします。」と言われてお移しになりました。

平成十年十月四日

名古屋市緑区大高町にあります、熱田神宮の元宮日神山に、伊勢湾台風により元宮が仮の神殿になっていましたが、この日、跡地に新しく神殿が造営されましたので、昭和天皇の陵御陵にお鎮まりになられていた靖国の御霊魂を、その前日に身杖代となられたお方がお移しになりました。

平成十一年十一月二十八日

東条英機他二十七名の御靈魂みたまの休まるどころが無く、迷い御靈魂みたまと成っています。三河の三ヶ根山山頂に祭られている場所に、参拝に来る人たちが日本国憲法第九条の重さを理解できず、改憲を唱える者たちの軽さに悩み、居り場おがなく、迷い御靈魂みたまとなつてゐる。東条英機他二十七名の御靈魂みたまを、平成十一年十二月九日さんだいでめとうかくほつしゅだいでんどうしかこふじいち、三代目東核芒種大伝道師加古藤市自宅に祀られている「大正腑天神熱田の生産しょうぶの神みなもとの源みなもと」にお祀りをするように。」との御啓示がありました。

平成十一年十二月九日

大正腑「熱田の神」の源みなもと、弥勒再下生の地だいしやうぶてんじんあつた（愛知県大府市明成町一丁目一七五番地）に、平成十一年十二月九日には太地喜和子を先達として、東條英機ほか二十七名の御靈魂みたまと、戦争殉難死せんそうじゆんなんしされた総ての御靈魂みたまがお集まりになり、世界の平和、日本の安寧あんないのためにお活動氣はたらきになられて居られます。

世界平和神宮院・竝宮・昭和神宮を建設

今上天皇の大御意志おおみごころを以つて、日本武尊やまとたけるのみことが大正腑天神熱田だいしやうぶてんじんあつたの生産しょうぶの神を、お祀りされた日本靈魂やまとたましいはつしやう発祥の地たつとを尊たつとび、世界の平和、日本国の安寧あんないの為に、日本国憲法第九条を大切におおみごころして、天皇の名なの下もとに、日本武尊やまとたけるのみことが民草和氣くさなきの剣つるぎを置おかれた靈地れいち、名古屋市緑区大高町日神山熱田神宮の元宮もとみやに、全世界の戦争殉難者せんそうじゆんなんしやの御靈魂みたまを一堂いっやうにお祀りする世界平和神宮院と、日本国憲法第九条の生うみ親おや、昭和天皇をお祀りする昭和神宮を建設けんせつ為し、日本国憲法第九条を世界の憲法けんぽうと普遍ふへんし、世界恒久平和の実現の為に、日本人一人ひとりの靈魂たましいに、一日も早くその事を氣付きかせるために、靖国の御靈魂みたまが、日本靈魂やまとたましいはつしやう発祥の神靈地しんれいちにて、色々はたらきお活動氣はたらきに成られておいてでございます。